

セルロースファイバー断熱材の ライフサイクルCO₂を実質ゼロに

デコス（山口県下関市、安成信次社長）は、国の制度などを活用しながら、セルロースファイバー断熱材のライフサイクルCO₂を実質ゼロにすることを実現した。

デコスが製造・販売を行っている「デコスファイバー」は、新聞紙をリサイクルした木質繊維系の建築用断熱材。リサイクル原料を使用するだけでなく、製造時に水や火を使わずに電気のみで生産するため、製造時の環境負荷が少ないという特徴を持つ。また、同社ではモデルシフトを積極的に採用し、国内の貨物輸送をトラックから環境負荷が少ない鉄道輸送に切り替えている。

こうした「デコスファイバー」の

環境性能を分かりやすく伝えるために、同社では断熱材として日本で最初にカーボンフットプリント（CFP）に取り組んできた。

CFPとは、商品のライフサイクル全般にわたる温室効果ガス排出量をCO₂換算で分かりやすく表示し、商品を選択する際の指標にしようというもの。欧州などを中心に普及が進んでいる。日本でも、2009年度から3年間、経済産業省、環境省、農林水産省、国土交通省が合同で試行事業を行い、現在は社産業環境管理協会が事務局となりCFPプログラムを実施している。

CFPを表示するためには、まず商品毎に「商品種別算定基準」（PCR）を策定しなくてはならない。PCRは、CFPの表示を希望する企業や業界団体などが中心となり策定する。建築用断熱材のPCRは、デコスも参加する日本セルローズファイバー工業会を中心として策定された。デコスでは、このPCRに基づいてデコスファイバーのCFPを表示している。

ちなみに、デコスファイバー1袋（15キログラム）で、CO₂換算で11・9

キログラムの温室効果ガスを排出している。この数字は、他の断熱材に比べ大幅に少ないという。

森林吸収源対策による カーボン・オフセットを実施

同社では、「CFPからさらにもう一步踏み込んだ取り組み」（断熱事業部東京営業所・田所憲一社長）として、カーボンオフセットによつ



ライフサイクルCO₂ “実質ゼロ” を実現したデコスファイバー

て、デコスファイバーのライフサイクルCO₂を実質ゼロにする取り組みを始めた。

具体的には、自社でのCO₂削減努力に加え、森林吸収源対策によって創出された温室効果ガス削減量をクレジット化したものを購入することで、カーボンオフセットを図る。この取り組みは、経済産業省などが実施する「CFPを活用したカーボンオフセット製品」試行事業に採択されている。

クレジットの購入先は、同社の親会社である安成工務店の取引先で、林業を営むトライ・ウッド（大分県日田市）。同社では、間伐推進プロジェクトで創出される温室効果ガス削減量をクレジット化し、販売している。

デコスでは、まずは安成工務店が建てる木の家にカーボンオフセットを行ったデコスファイバーを採用していく方針だ。また、「今後、住宅分野だけでなく、全国の木造公共施設建築物などにも実質ゼロ・カーボン断熱材を普及することで低炭素社会に貢献したい」（田所社長）としている。